読みが苦手

どうしてそうなるの？

1. 日本語を音に分解して聞き分けたり、どんな音だったか記憶したりすることが苦手な場合、ひらがなやカタカナの文字と、音を対応させることに時間がかかりやすくなります。
2. 理解している語い数が少ない、視覚認知（見え方）が独特、視覚記憶が弱いなど様々な理由が漢字を読むことの苦手さに繋がります。目を滑らかに動かすことができず、どこを読んでいたかわからなくなることもあります。

対応例

1. あひるの「あ」など、イラストと併せて字が載せてあるカードを使うと良いでしょう。知っている言葉と繋げて記憶することで、音の聞き分けや記憶を助けることができます。
2. 部首の意味（さんずいは水に関係するなど）を学ぶ、手本を大きく印刷して見えやすくする、漢字をパーツに分解したパズルを組み合わせて遊ぶなどの方法があります。文章は一行ずつ読めるように、他の行は紙などで隠すことも有効です。

書きが苦手

どうしてそうなるの？

1. 鉛筆を正しく握れていないと筆圧の調整が難しくなります。また、姿勢や肩、肘、手首が安定していないと運筆が安定せず、字が整いにくくなります。
2. 空間を上手にとらえることができないと、枠にあった字の大きさをイメージすることやどの位置から書いたらよいかがわからず、形の崩れや鏡文字に繋がります。

対応例

1. 鉛筆の握り方については、三角鉛筆や持ちやすい太さになるための道具を使い、正しい持ち方を促しましょう。また、書字を行う際は、体に合った机、椅子を使用し、足底をしっかりと床につけた状態で行いましょう（足が床につかない場合は、踏み台等を利用するのも良いでしょう）。また、手首を起こし、小指側を紙面につけて書くことを意識させてみるのも良いと思います。
2. 補助線入りのノートを使い、字の書き始めに点を打つなどの工夫をしてみましょう。

子どもの発達特性を知ることが大切!!

子どもが生まれつき持っている発達特性と周囲の環境が合わないと、本人が努力してもうまくいかず、「頑張ってもどうせだめだ」、「自分だけが何か他の人と違う」といった、自己否定感や疎外感を抱いてしまいます。

一方、家族や先生も不可解な行動への関わり方に悩み、徐々に子どもを心理的に受け入れづらくなり、結果として、不適切な対応（体罰、暴言など）に至ることがあるかもしれません。また、家族が将来を悲観したり、自分自身を責めることになってしまう場合もあります。

子どもの行動を正しく理解し、正しい対応ができるためには、子どもの発達特性を知ることが大切です。家族だけで抱え込まず、ぜひご相談ください。

発達の凸凹と発達障害

発達の凸凹（でこぼこ）は、大なり小なりどの子どもにもあるものです。しかし、この凸凹（得意・苦手）が非常に大きいと、本来持っている力を発揮できずに、子どもが日常生活で困り感を抱えたり、保護者にとって育てにくさを感じたりすることがあります。

発達の凸凹によって、周囲の環境と不適応を起こしている状態を発達障害といい、外見だけでわかりにくいため、保護者のしつけができていない、わがまま、変わった子といった偏見や誤解を受けることもあります。

発達障害は、環境や心理的な問題が原因ではなく、脳の働き方（情報処理の仕方）が大多数の人と異なっていることによって生じます。この違いによって生じた行動の組み合わせに名前（自閉スペクトラム症、AD/HD、限局性学習症など）がついています。

これらの行動特徴は、発達の早期に兆候がみられ、手術や薬によって治る性質のものではありませんが、早い時期に周囲の人が子どもの行動を正しく理解し、適切な対応や支援をすることで、生活上や学習上の困難さを軽減できることがわかってきました。

詳しくは、以下のサイトが参考になりますので、ご参照ください。

【参考サイト】
・『国立障害者リハビリテーションセンター・発達障害情報・支援センター』
http://www.rehab.go.jp/ddis

熊本市子ども発達支援センター　熊本市子ども発達支援センター　検索

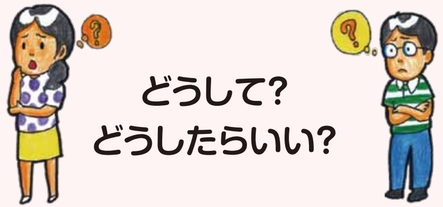
TEL:096-366-8240
住所:〒862-0971 熊本市中央区大江5丁目1番1号
総合保健福祉センター「ウェルパルくまもと」2階
電話相談（随時受付）
月～土　※祝日・年末年始を除く／8:30～17:15

専門のスタッフが、ご相談に応じます。
お子さんに合ったかかわり方を、一緒に考えましょう。

あなたに夢を。宝くじ　街に元気を。
クーちゃん

お子さんの発達に心配のある保護者の方へ

こんな心配や気になることはありませんか？



子どもの気になる行動は、子どもにとっては困ったときのサインかもしれません。気になる行動の裏には、行動を起こす“理由”があります。子どもの行動をよく観察して、理由を推測することが、対応を考えるヒントにつながります。

子どもの発達には個人差があり、個性もさまざまですが、なかには、子育てに配慮や工夫が必要な子どももいます。しかし、子どもの発達の凸凹（でこぼこ）に合わせて教えたり、環境を整えたりすることで、強みや長所を伸ばし、自分らしさを社会の中で発揮できるようになります。以下によく聞かれる気になる様子とその背景として考えられるもの、また具体的な対応例を一部載せています。これらの対応例は一般的なもので有効な対応はひとりひとり異なりますが、是非参考にしてみてください。

トラブル（ケンカ）が多い

具体例

- おもちゃを譲れない、独り占めする。
- カッとした時にすぐに手が出る。強い言葉（バカなど）を使う。
- 嫌なことがあっても言い出せない。
- 急に相手を押したり、叩いたりする。

どうしてそうなるの？

- 自分の気持ちをどう表現したらいいかわからず、乱暴な行動やことばで表現していることがあります。反対に、上手に主張ができずに、引っ込み思案なように見えることもあります。
- 本人は悪気なく少し押したつもりでも、力の調節が苦手で、強く押したり叩いたりしたようになることがあります。

対応例

- 双方の話をよく聞いて、お互いが言いたかったことを整理しましょう。
- 子どもの言いたいことに共感し、相手に伝わりやすい言い方で代弁して、適切な表現の仕方の見本を見せましょう。
- トラブルが起こりそうな場面を予測し、順番の見通しや貸し借りのルールなどを、事前に説明しておきましょう。また、活動によって空間を広く使う、座る位置やおもちゃを置く場所を工夫するなど、環境面での調整も有効です。

落ち着きがない

どうしてそうなるの？

1. 周囲の音や見えたもの、動いているものの情報に人一倍注目しやすいため、気がそれてしまうことが考えられます。
2. 体を動かす感覚【固有受容覚】や体の揺れや傾きを教えてくれる感覚【前庭覚】の感じ取りにくさから、感覚を満たすために動いていることが考えられます。

対応例

1. 耳や目から入る刺激をできるだけ減らしましょう。段ボールハウスなどの狭い空間が落ち着くことがあります。物の数を減らす、必要ないものは布で隠す等の方法も有効です。
2. 思いっきり体を動かしてよい時間や場所を作りましょう。鉄棒や大人の腕にぶら下がらせる、クッションや布団でぎゅっと包んであげるなど、求めている感覚刺激を満足させることも大切です。

ことばについて

具体例

1. まったく（ほとんど）ことばが出ていない。
2. しゃべるが一方的で、相互的な会話にならない。

   質問に対し、ちぐはぐな返事になる。（例:保育園どうだった?⇒犬がわんって言ったの。）

   出来事をたずねても、すぐに「わからない。」と言ったり、何が言いたかったのかわかりにくい説明になったりする。

どうしてそうなるの？

- ことばには、3つの側面があります。『言えることば』、『分かることば』、『コミュニケーション意欲（お話したいと思う気持ち）』の3点です。目立つところは『言えることば』なので、一言もしゃべらない、単語が数個しか出ないなどの状態だけに大人の関心が向きやすいと考えられます。しかし、お母さんやお父さんの言うことが理解できているかな?話したい、伝えたい!と思う気持ちを充分に持っているかな?という視点をもつことがとても大切です。ことばの理解が不十分であったり、コミュニケーション意欲が十分に育っていなかったりすることが、ことばが出ない要因のひとつになります。

- 表情や態度などの非言語的な情報から相手の状況に気づくことが苦手で、つい一方的にしゃべってしまうことが考えられます。同様の背景から、相手の質問の意図（どんなことを答えてほしいのか）をくみ取ることに苦手さがあることで、質問に対してちぐはぐな回答になることもあります。また、十分な語いがあっても何から話せばよいのかわからず、説明を諦めてしまったり、的を射ない内容になってしまったりすることが考えられます。

対応例

1. コミュニケーションを伸ばすことばかけが必要だとわかっていても、どのようにすると良いのか悩まれる方も多いと思います。以下に紹介する方法で、まずは大人が子どもと楽しくやりとりすることを目標にしましょう。

①動きを真似てみる･･･とんとん、と積木を叩いて遊んでいたら、同じように積木を叩いてみる。

②出す音や声を真似てみる･･･喃語が出ている子には、その喃語を真似てみましょう。

③気持ちをことばで言ってあげる･･･おいしそうにご飯を食べているときは、「おいしいね。」とことばにしてみると良いでしょう。

④大人が自分の気持ちを口にする･･･自分の行動をことばにすることで、ことばの意味がわかりやすくなります。

⑤間違えたことばをさりげなく直す･･･小さな子は、発音がうまくいかないことが多いです。言い直しをさせるのではなく、さりげなく正しい発音で返してあげましょう。

⑥子どものことばを広げて返す･･車を見て「おっきいぶっぶー」と言う子には、「本当だ、大きいぶっぶーだね。どこに行くのかなぁ。」など、話題を少し広げて返してあげましょう。

その他、親子でのふれあい遊びを多く取り入れたり、子どもの視点に合わせたことばかけをしたりすることも効果的です。

2. 一方的にしゃべってしまう子には、話す順番を決めることも良いでしょう。また、ちぐはぐな回答をするときは、質問の仕方をもっと具体的にしましょう。例えば、「保育園どうだった?」だけではなく、「今日は何をして遊んだの?」と回答の幅が限定的になるようにしたり、それでも難しい場合は「お外で遊んだ?それともお部屋?」と二択で答えられるものにしたりすると、相手がどんな答えを求めているのかわかりやすくなります。説明が苦手なお子さんも、何を言えばよいのかわかりやすくなるでしょう。話がまとまらず何が言いたいのかわからない場合は、大人が推測して「〇〇ってこと?」と短くまとめて返してあげましょう。どう話せばよかったのかのモデルになります。

かんしゃくを起こす

どうしてそうなるの？

- 気持ちの切り替えがうまくできないことが考えられます。
- 気持ちを言葉でうまく表現出来ずに、コミュニケーションの手段として行動で表していることが考えられます。

対応例

- まずは、静かで安全な場所に移動し、子どもも親も落ち着いて対応できるようにしましょう。次に、子どもが次に向かうための気持ちを作る時間が必要です。『〇〇したら、●●しようね。』と次の行動が予測できるような声かけがあると、見通しが持ちやすいでしょう。また、かんしゃくが起きる前の対応として、事前に見通しを伝えておくことも大切です。
- コミュニケーションの手段として、かんしゃくを起こしている場合などには、子どもの行動とその背景にある感情を分けて考えることが必要です。『〇〇がいやだったのね。』、『でも、叩くのはだめよ。そういう時は、●●と言ったらいいよ。』のように、気持ちを代弁した上で、してほしくないことに加え、適切な表現方法を伝えると、子どもも分かりやすいと思います。